

## 顔の見える木材での家づくり事業への取り組み

木曽森林管理署 経営係 ○秋田 頭二  
 木曽のヒノキで家をつくる会 ○松本 寿弘

### 要旨

近年、設計士、大工、工務店、木材供給者などが連携して、地域材を使用した住宅の提案や、その供給体制の整備などに取り組む動きが見られます。

こうしたことから中部森林管理局において、木材を地域の国有林から地域の製材工場を経て、確実に消費者に提供できるシステムの整備や、NPO団体などへ活動フィールドの提供を行うなかで、地域材、国有林材の利用拡大を図る「顔の見える木材での家づくり」事業を推進するとの方針が決定されました。

当署では、柱材を主とした人工林ヒノキの間伐材の生産を相当量実行し販売しており、この事業を通し「木曽のヒノキ」の良さや、森林の重要性を理解して頂くとの観点にて消費者に提供するため、「顔の見える木材での家づくり」事業に取り組んでいるので報告します。

### はじめに

この事業の体系（図1 事業体系図）ですが、この事業を推進するために、林業、製材業、大工、設計士などからなるNPO団体を組織し、その組織において、森林や樹木とふれあう自然体験、伐採現場の見学や森林整備を行うなどの森づくり体験、木造住宅モデルの見学、木工、左官、塗装など行う家づくり体験など諸活動を開催します。

そして、地域材で家を造りたいと希望される方には、住宅相談、住宅設計など行い、最終的には住宅を建築し供給します。

また、一般消費者の方は会員登録もできます。

一方、国有林は、NPO団体の構成員である素材生産業者などに対し立木販売を行い、また、NPO団体が活動するためのフィールドや各種情報の提供を行います。

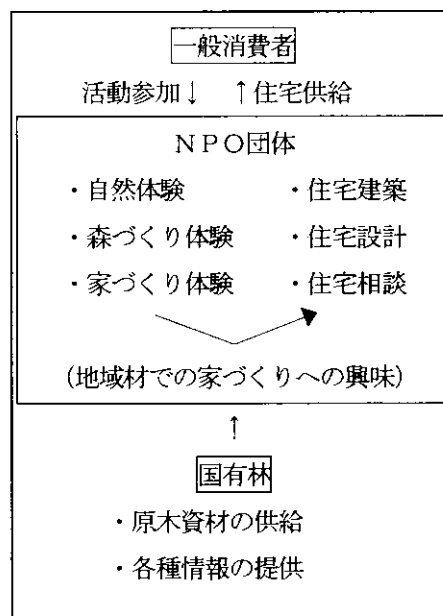


図1 事業体系図

## 1 木材生産地の概要

木材生産地の概要は次のとおりです。

- (1) 所在地 木曽郡木祖村小木曽国有林 1043い林小班 (図2)
- (2) 面積 3.76ha (14年度分) / 10.35ha (3ヶ年分)
- (3) 樹種・林齢 ヒノキ人工林80年生 (写真1)
- (4) 材積 220m<sup>3</sup> (14年度分) / 600m<sup>3</sup> (3ヶ年分)
  - ア 平均胸高直径 24cm
  - イ 平均樹高 16m
  - ウ 平均単木材積 0.38m<sup>3</sup>

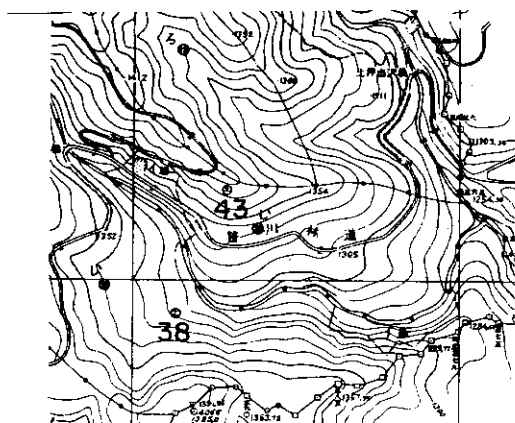


図2 地形図



写真1 林相

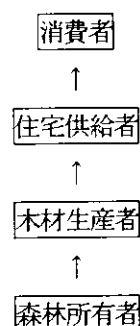
## 2 NPO団体

中部森林管理局において、平成14年8月5日から8月30日までで公募を行ったところ、数件の問い合わせがありました。審査の結果、木曽木材生産事業協同組合と共同買受けの、顔の見える木材での家づくりグループ「木曽のヒノキで家をつくる会」と中部森林管理局長との間で、平成14年9月6日協定を締結しました。

「木曽のヒノキで家をつくる会」は木材生産者から工務店までの関係者で構成されており、相互で連携(図3)を図ることによりトータルコストの削減が期待されています。

- (1) 木材供給者 木曽木材生産事業協同組合
- (2) 製材工場 木曽木材工業協同組合の賛同会員
- (3) 設計士 (社)日本建築家協会長野県クラブ
- (4) 工務店 長野県木造住宅協会の賛同会員  
信州木材製品流通情報センターの賛同会員

～従来の流通～



～顔の見える木材での家づくり～

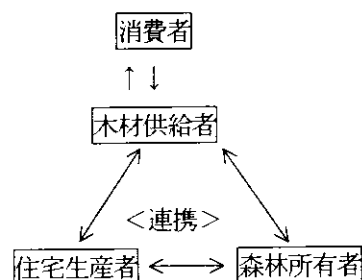


図3 木材の流通システム

### 3 会員

マスコミ、ホームページなどを通して、「木曾のヒノキで家をつくる会」会員の一般公募を行いました。

その結果、地域材を使用して家をつくりたいと考えている方をはじめ、「木とのお見合いツアー」に参加された方々が入会され、現在、会員数は29名となっています。

### 4 立木の安定供給システム

中部森林管理局長と「顔の見える木材での家づくりグループ」との間で、平成14年度から16年度までの3ヶ年で各年200m<sup>3</sup>を販売し、実施予定期間は、平成17年3月31日までとする、立木の安定供給システムによる販売に関する相互協定を締結しました。

3ヶ年の販売数量は600m<sup>3</sup>で、概ね15棟分の住宅に木材を供給することとしています。

### 5 木とのお見合いツアー

平成14年10月5日に、国有林の木材供給現場や、信州木材製品認証工場である製材工場を一般消費者の方々に紹介する「木とのお見合いツアー」(写真2)を行いました。

当日は木曾地区をはじめ、中信、北信地区中心に20代から60代まで45名の方々の参加がありました。

木材の生産現場で森林教室を開催したのち、「顔の見える木材での家づくり」事業の内容を説明し、伐採、玉切り作業(写真3)の様様を見て頂きました。

また、柱材の展示(写真4)も行いました。

製材工場においては、人工林ヒノキなど木材の特徴を説明後、含水率を計ること(写真5)や、柱材を抱え重さを体験することなど通して、消費者の方に木材に親しんで頂きました。

続いて貯木場に移動し、木材の種類や集積などの説明をしました。

参加された方々の関心も高く、アンケートでは、

- (1) 木材も人も見えるので安心できる。
- (2) 木曾のヒノキは強度がありきれい。
- (3) ヒノキの香りがよかった。
- (4) ツアーは大変参考になった。

との感想が寄せられました。



写真2 お見合いツアー



写真3 玉切り作業



写真4 柱材の展示

## 6 木造住宅見学会

平成14年12月7日、「木とのお見合いツアー」に参加された方々を対象に、木曾のヒノキを使用したモデル住宅などの見学会を行いました。

地元産材を使用した自然住宅（写真6）や、県産材を100%使用したモデル住宅「くつろ木の家」

（写真6）を見学したのち、木材の使い方、建築期間、木材製品の価格、県の住宅ローン制度などについての説明会と懇談会を開きました。



写真5 含水率の計測を体験



写真6 自然住宅



写真7 くつろ木の家

## 7 アンケート

会員の皆さんを対象にした、一連の事業を通してのアンケートを行った結果、

- (1) 木材の価格面については不透明感がある。
- (2) 家づくりの実地体験を行ったらどうか。
- (3) 木造住宅は環境などにやさしくてよい。
- (4) PR活動を広く行い、この企画を続けて欲しい。

などの意見がありました。

## 8 成果

消費者の方々の理解を得るため諸事業に取り組んで参りましたが、成果として次のことが挙げられます。

- (1) 地域材の利用と普及が図られ、流通についても理解が得られた。
- (2) 住宅建築などのネットワーク作りが進められた。
- (3) 地域に根付いた木材提供システムが整備された。
- (4) 見学会、説明会など通して、木造住宅、地場産業などへの理解が深まった。
- (5) 地域材の利用を通して、木材、森林、環境などへの理解、関心が醸成された。

9 課題

初めての取り組みであるため、手探り状態で事業を進めて参りましたが、今後、取り組んでいかなければならない課題なども多くあります。

- (1) 会の活動などをマスコミやホームページなどへ効果的に情報発信し、会員の確保を図っていきます。
- (2) 今年度実施した各種イベントに加え、森林とふれあう自然体験、植林や間伐などの森林整備への参画、大工、左官などを行う家づくり体験の事業を実施し、納得のいく家づくりや会員相互の連帯感を醸成していく必要があります。
- (3) 消費者の方々の理解を得られるように、可能な限り製品価格を表示する必要があります。
- (4) 県の住宅ローン「やすら木ぬく森ローン」の積極的な活用のPRを図る必要があります。
- (5) 設計士や工務店などに対するメリットも考慮する必要があります。
- (6) きめ細やかな事業の実施を図るため、ネットワーク内の企業の連携を十分図る必要があります。



# 木と“お見合い” 建てた家に愛着

## 木祖の国有林で見学会

中部森林管理署が進める「緑の語る木材での家づくり」事業で、11月、住居用材の供給地となる、八祖村小六郎国有林を三益藩として歴史を伝える「お見合いツアー」が開かれた。千四箇地区など県内各県から約四十人の一般市民が参加し、ヒノキの人工林や天然林の立派、製材工場などをめぐり関心を極めた。

ツアーは伐採現場をはじめ、同村の製材工場、製材場の木材とヒノキを、伐採現場は、八十坪の人工林、今年度は三日間のツアーを供給する予定。三益藩は、中部森林管理署は「木を育てる人からヒノキを育てる人まで、一掃を受けて家を作るお見合いツアー。木は、耐久性も高い木質のヒノキを、お見合いして頂く伐採の現場があったヒノキについて説明を受ける参加者たち。

「と語った。伐採現場による伐採の現場が行われ、用材を土着に合わせた建築の用途などについても説明があった。参加者からは「さすがに、木が長い、などの声も聞かれた。

富士市街から離れた山間部、八祖村の国有林は、一財区アカマツなどの管理をして木に植れているが、やはり木質のヒノキは質が違ってくる。村の事務所も人も多いため安心できるし、建てた家にも愛着がわくでしょうね」と笑顔を見せた。

平成14年10月6日付記事

## まとめ

当事業は発表後からマスコミ各社の反響が大きく、機会ある度に報道（記事）がされてきましたが、消費者の方の反応については全く見当が付きませんでした。しかし結果として、大勢の会員の申し込みもあり、「木とお見合いツアー」など積極的な参加をして頂いています。このことは、消費者の方々の健康にもより良い住宅を建てたいという期待の現れであると考えています。

現在、3名の方が資材の購入希望を出されていますが、会員の皆さんの関心も高いので、会としましては、お施主さんの気持ちになって取り組んで参りたいと考えています。

国有林としまして、現在までの諸活動のなかで、森林の重要性や木の素材の良さなどを理解して頂くなど、事業の目的に沿った形で進んでおり、会の活動を温かく見守ると共に、3ヶ年に渡るこの事業が有機的に終了するよう、一層の連携を図り取り組んで参りたいと考えています。